

客船よもやまばなし(197)

国際フェリーで台風とのおいかけっこ

クルーズフェリー化を目指すパンスタードリーム乗船記

大阪府立大学大学院海洋システム工学分野 教授

池田 良穂

大阪市の港湾局が、クルーズやフェリー事業の振興にも精力的に動いていることは結構有名だ。地元の大学に勤めていることもあって、時々、同港湾局関連のお手伝いをさせていただく機会に恵まれ、普段はなかなか聞けない客船事業経営者から、いろいろなフレッシュな情報を頂ける。大学でのアカデミックな研究にとっても、こうした経営の最前線で働く人々の生々しい迫力のある話は、結構役に立つことが多い。

去る4月にあったフェリー事業の活性化のための会合で、筆者は欧州におけるクルーズフェリーと超高速フェリーの現状の話をさせていただいた。その時に、大阪と釜山を結ぶパンスターフェリーの金会長からは、同社の「パンスタードリーム」(元ブルーハイウェイラインの「フェリーくろしお」)をクルーズフェリー化し、空き時間を使った釜山基点とするワンナイトクルーズも実施したところ、定期航路の韓国人乗客が急増して、キャンセル待ちの便も多くなるという状況になっているとの話を聞いた。

この話を聞いて、いよいよ、日本近海の国際フェリーも、欧州のようなクルーズフ

ェリーの時代が到来したのかと、嬉しくなった。ショーなどのイベント、展望ラウンジ増設による快適な船旅の提供、コンビニ設置による陸上と変らぬ利便性の提供などを行った結果なのだという。「一度、乗船してみてください」という金会長のお誘いがありながら、なかなか実現しなかった。

8~9月になって、遅れていた「フェリー客船情報2006」の編集によりやく本格的に取り掛かって、原稿執筆をしている中で、この「パンスタードリーム」のクルーズフェリー化をぜひ採り上げたいと思った。これからの日本近海の国際フェリーの進化に、大きな影響を及ぼす可能性を秘めているように思ったからである。

「パンスタードリーム」は、毎週、大阪~釜山間を3往復している。16時に出港し、翌日の10時に到着というスケジュールで、大部分の時間は瀬戸内海の中だから、船酔いの心配もあまりない、船旅にとっては絶好の航路である。大阪を出港すると、六甲の山並み、明石海峡大橋の通過、瀬戸に沈む夕日などが楽しめる。荒れることの多い玄海灘は深夜から朝にかけてなので、船に

弱い人でも寝ていると大丈夫だ。

釜山からの便は、夜 10 時頃に通過する 30 分間余りの関門海峡の夜景のパノラマが素晴らしい。朝になれば、瀬戸大橋や明石海峡大橋通過をする瀬戸内海の船旅が楽しめる。

9 月になって多少時間がとれるようになったので、平日の「パンスタードリーム」での往復を金会長にお願いしてみた。金会長からは、「ぜひ週末の便を利用して大阪・釜山間を往復し、釜山基点のワンナイトクルーズにも乗船して、アドバイスが欲しい」との要請があり、それに応じて 9 月 15 日(金)に大阪発の便に、「フェリー客船情報 2006」の編集作業を行っている 3 名の学生と共に乗り込んだ。

折しも、沖縄付近を北上する台風 13 号が九州・韓国南部を直撃する可能性があるとの予報が出ており、風雲急を告げる、といった雲行きであった。会社からは、「ワンナイトクルーズと帰りの便が欠航となる可能性もありますか」といった問い合わせもあったが、台風が接近してくる中でのめったにない乗船体験の機会なので、迷わずに乗船することとした。

大阪南港にそびえるワールド・トレード・センター(WTC)の上から、眼下の国際フェリーターミナルに停泊する「パンスタードリーム」の姿をカメラに収めることから、この旅は始まった。14 時から乗船手続きが始まる。ターミナルが狭く、たくさんの乗客と、日韓の間の荷物運びを稼業とする「ぼったりさん」の大量の荷物でごったがえしている。今便の乗客は 350 名と、いつもよ

りはかなり少ないとのこと。



バスで岸壁内を移動して、タラップから乗船し、エスカレーターでロビーデッキに上がる。ロビーでは歓迎のための音楽が演奏されており、ウクライナからの小楽団だという。広いロビーのまわりに、案内所、売店、免税品店、コンビニ、レストラン兼ショーラウンジがある。昨年クルーズフェリー化した時に、これらの配置が大きく変わっており、以前乗船した時とかなり印象が違っていた。レストランの船尾側には、カラオケルーム、集会室、団体用大部屋などが造られ、急増する旅客需要に対応して旅客定員を増やすための客室の増設、改装が行われている。

デッキの上には、2 層の展望カフェが増設されているが、ここには、オープンデッキに一度出ないと行けない構造になっている。ここでも、時間によっては音楽演奏が

あり、軽食と飲物が提供されている。最上階のオープンデッキも開放していることから、旅客が利用できるオープンデッキが極めて広く、さらに随所に椅子が配置されて美しい瀬戸内海の船旅を楽しめるように配慮されている。乗客の記念撮影用にタイタニックポイントもしっかりと作られているのは微笑ましい。

このフェリーでは、日本人客用に、往復運賃、ウェルカムドリンク、ブリッジツアー、食事などをセットしたクルーズチケットを販売している。このチケットは、上等級船室の利用が条件となっているが、往復運賃とほとんど変わらない料金で、全てが含まれているお買い得なものだ。この航海の最初の食事は、このクルーズチケットのために特別に用意される洋食ディナーを楽しんだ。洋食の他に、和食、韓食の選択もできるという。

食事の後のショーは、ウクライナの楽団による音楽、韓国人のマジック、そしてカラオケ大会。音楽が結構やかましいのと、元気な韓国人の司会者が韓国語でまくしたてるので、日本人客には少し合わないかもしれない。350名の乗客でもパブリックスペースが若干不足してしまうのが、同船のハード面での欠点のようだ。

翌朝、玄界灘は台風の影響が出始めたようであるかなりの波がたち、船は大きく揺れていた。7時すぎからレストランがオープン。洋朝食の他、3種類の韓朝食が用意されており、いずれも1000~1200円程度。蟹の入った味噌チゲ(味噌汁)の朝食には、たくさんの種類のキムチも並び、日本人にとって

は結構充実感があつた。

朝になって、会社から「ワンナイトクルーズを欠航にして、出港を1日前倒しにして、この日の16時に大阪に向けて出港し、大阪湾で1晩停泊して、定期便でのスケジュール通りに月曜朝に大阪南港に着岸することになった」とのこと。ワンナイトクルーズが体験できなくなったことは残念だが、反面、台風を避けてのめったにない航海が体験できるのにはワクワクしてしまった。

この決定には、日曜発で日本に修学旅行に行く予定の150名の高校生客の、1日出発が早くても行きたいという希望があつたようだ。日本に1日早く着くよりも、大阪湾で1泊する方がホテル代などの追加出費がないのも高校側には有難いらしい。フェリー会社にとっても、定期便往復1便が欠航するよりは、ワンナイトクルーズを中止する方が経営的にもメリットが大きであろう。予約者への連絡を行った結果、この便の乗客は250名と、スケジュールが変った割には結構の数の乗客となつた。

16時に釜山を出港。外海は大荒れになっている。同道した学生たちは、出港前にたらふく食べて、玄界灘は寝て渡ることとしたため、この日の夕食は筆者一人でとなつた。ビビンバを食べたが、なかなか美味しい。韓国人料理人だけに、韓食のほうが得意のようだ。

21時半には、本州の影になって海面も穏やかになった。22時に関門海峡を通過。瀬戸内海は、外海の荒さがうそのように穏やか。新門司の沖合近くでアンカーを下ろす。

一夜明けると、船は備讃瀬戸を航行して

いた。大小の貨物船、フェリーと行きかう。夕方に大阪湾に到着し、関西空港の沖でアンカーを下ろした。深夜から、船は大きな動揺をするのが感じられた。台風の影響で、大阪湾もかなりの風が吹き、波がたち始めているようだ。

翌朝、窓のカーテンをあけると、まわりには欠航が決まった瀬戸内海の長距離フェリーなどがアンカーを下ろして、必死で風に向っている。9時過ぎに「パンスタードリーム」は、アンカーを上げて、反転し、追い波状態で大阪港へとせずせずと入港した。港内では、2隻のタグボートが待機していて、綱をとり、着岸作業を補助。予定通り10時に国際フェリーターミナルに着岸した。